

「使用上の注意」改訂のお知らせ

2004年6月
大正薬品工業株式会社

抗血小板剤

指定医薬品

ホルダゾール錠 50・100

シロスタゾール錠

この度、標記製品の「使用上の注意」を改訂致しましたので、お知らせ申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。

改訂の概要

事務連絡(2004年5月31日付)により下線部を追加記載しました。

参考：企業報告

改 訂 後	改 訂 前
<p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) 重大な副作用(頻度不明)</p> <p>1) 変更なし</p> <p>2) 出血 <u>脳出血等の頭蓋内出血</u> <u>脳出血等の頭蓋内出血(初期症状：頭痛、悪心・嘔吐、意識障害、片麻痺等)</u>があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。 肺出血、消化管出血、鼻出血、眼底出血等 肺出血、消化管出血、鼻出血、眼底出血等があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>3) 変更なし</p> <p>4) 変更なし</p> <p>5) 変更なし</p>	<p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(1) 重大な副作用(頻度不明)</p> <p>1) うっ血性心不全、心筋梗塞、狭心症、心室頻拍があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>2) 出血 脳出血、肺出血、消化管出血、鼻出血、眼底出血があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>3) 汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>4) 間質性肺炎 発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多を伴う間質性肺炎があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。</p> <p>5) 肝機能障害、黄疸 AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・LDH 等の上昇や黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p>

自主改訂により下線部を変更又は追加記載しました。

参考：企業報告

改 訂 後	改 訂 前																																								
<p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(2)その他の副作用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症^{注1)}</td> <td>光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感</td> </tr> <tr> <td>循環器^{注2)}</td> <td>心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇</td> </tr> <tr> <td>精神神経系^{注2)}</td> <td>振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感</td> </tr> <tr> <td>血液</td> <td>貧血、白血球減少、<u>好酸球増多</u></td> </tr> <tr> <td>出血傾向</td> <td>皮下出血、血尿</td> </tr> <tr> <td>肝臓</td> <td>AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇</td> </tr> <tr> <td>腎臓</td> <td>BUN・クレアチニン・尿酸値上昇</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1)：このような場合には投与を中止すること。 注 2)：このような場合には減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p>		頻度不明	過敏症 ^{注1)}	光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感	循環器 ^{注2)}	心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇	精神神経系 ^{注2)}	振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感	消化器	腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感	血液	貧血、白血球減少、 <u>好酸球増多</u>	出血傾向	皮下出血、血尿	肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇	腎臓	BUN・クレアチニン・尿酸値上昇	その他	発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿	<p>4. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(2)その他の副作用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症^{注1)}</td> <td>光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感</td> </tr> <tr> <td>循環器^{注2)}</td> <td>心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇</td> </tr> <tr> <td>精神神経系^{注2)}</td> <td>振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>腹痛、嘔気・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感</td> </tr> <tr> <td>血液</td> <td>貧血、白血球減少</td> </tr> <tr> <td>出血傾向</td> <td>皮下出血、血尿</td> </tr> <tr> <td>肝臓</td> <td>AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇</td> </tr> <tr> <td>腎臓</td> <td>BUN・クレアチニン・尿酸値上昇</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1)：このような場合には投与を中止すること。 注 2)：このような場合には減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。</p>		頻度不明	過敏症 ^{注1)}	光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感	循環器 ^{注2)}	心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇	精神神経系 ^{注2)}	振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感	消化器	腹痛、嘔気・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感	血液	貧血、白血球減少	出血傾向	皮下出血、血尿	肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇	腎臓	BUN・クレアチニン・尿酸値上昇	その他	発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿
	頻度不明																																								
過敏症 ^{注1)}	光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感																																								
循環器 ^{注2)}	心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇																																								
精神神経系 ^{注2)}	振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感																																								
消化器	腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感																																								
血液	貧血、白血球減少、 <u>好酸球増多</u>																																								
出血傾向	皮下出血、血尿																																								
肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇																																								
腎臓	BUN・クレアチニン・尿酸値上昇																																								
その他	発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿																																								
	頻度不明																																								
過敏症 ^{注1)}	光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、 ・痒感																																								
循環器 ^{注2)}	心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、 血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇																																								
精神神経系 ^{注2)}	振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、 眠気、しびれ感																																								
消化器	腹痛、嘔気・嘔吐、食欲不振、下痢、 胸やけ、腹部膨満感																																								
血液	貧血、白血球減少																																								
出血傾向	皮下出血、血尿																																								
肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・ LDHの上昇																																								
腎臓	BUN・クレアチニン・尿酸値上昇																																								
その他	発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、 耳鳴、疼痛、・怠感、脱力感、結膜炎、頻尿																																								

改訂内容につきましては、日薬連発行「DSU 医薬品安全対策情報 130」に掲載されます。

次頁以降に改訂後の「使用上の注意」全文が記載されていますので、併せてご参照下さい。

【 警 告 】

本剤の投与により脈拍数が増加し、狭心症が発現することがあるので、狭心症の症状(胸痛等)に対する問診を注意深く行うこと。[他社が実施した脳梗塞再発抑制効果を検討する試験において、長期にわたり PRP (pressure rate product) を有意に上昇させる作用が認められた。また、シロスタゾール投与群に狭心症を発現した症例がみられた。] (「1.慎重投与(4)」の項、「2.重要な基本的注意(1)」の項、「4.副作用(1)重大な副作用 1)うっ血性心不全、心筋梗塞、狭心症、心室頻拍」の項参照)

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 出血している患者(血友病、毛細血管脆弱症、頭蓋内出血、消化管出血、尿路出血、喀血、硝子体出血等) [出血を助長するおそれがある。]
- (2) うっ血性心不全の患者 [症状を悪化させるおそれがある。] (「2.重要な基本的注意(2)」の項参照)
- (3) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (4) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 [「6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 抗凝固剤(ワルファリン等)、血小板凝集を抑制する薬剤(アスピリン、チクロピジン等)、血栓溶解剤(ウロキナーゼ、アルテプラゼ等)、プロスタグランジン E₁ 製剤及びその誘導体(アルプロスタジル、リマプロストアルファデクス等)を投与中の患者 [「3.相互作用」の項参照]
- (2) 月経期間中の患者 [出血を助長するおそれがある。]
- (3) 出血傾向並びにその素因のある患者 [出血した時、それを助長するおそれがある。]
- (4) 冠動脈狭窄を合併する患者 [本剤投与による脈拍数増加により狭心症を誘発する可能性がある。] (【警告】の項、「2.重要な基本的注意(1)」の項、「4.副作用(1)重大な副作用 1)うっ血性心不全、心筋梗塞、狭心症、心室頻拍」の項参照)
- (5) 糖尿病あるいは耐糖能異常を有する患者 [出血性有害事象が発現しやすい。]
- (6) 重篤な肝障害のある患者 [シロスタゾールの血中濃度が上昇するおそれがある。]
- (7) 重篤な腎障害のある患者 [シロスタゾールの代謝物の血中濃度が上昇するおそれがある。]
- (8) 持続して血圧が上昇している高血圧の患者(悪性高血圧等) [「9.その他の注意(2)」の項参照]

2. 重要な基本的注意

- (1) 冠動脈狭窄を合併する患者で、本剤を投与中に過度の脈拍数増加があらわれた場合には、狭心症を誘発する可能性があるため、このような場合には減量又は中止するなどの適切な処置を行うこと。[【警告】の項、「1.慎重投与(4)」の項、「4.副作用(1)重大な副作用 1)うっ血性心不全、心筋梗塞、狭心症、心室頻拍」の項参照]
- (2) 本剤は PDE3 阻害作用を有する薬剤である。海外において PDE3 阻害作用を有する薬剤(ミルリノン、ベスナリノン)に関しては、うっ血性心不全(NYHA 分類 ~)患者を対象にしたプラセボ対照長期比較試験において、生存率がプラセボより低かったとの報告がある。また、うっ血性心不全を有しない患者において、本剤を含む PDE3 阻害剤を長期投与した場合の予後は明らかではない。

3. 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素 CYP3A4 及び一部 CYP2D6、CYP2C19 で代謝される。

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝固剤 ワルファリン等 血小板凝集を抑制する薬剤 アスピリン、チクロピジン等 血栓溶解剤 ウロキナーゼ、アルテプラゼ等 プロスタグランジン E ₁ 製剤及びその誘導体 アルプロスタジル、リマプロストアルファデクス等	出血した時、それを助長するおそれがある。併用時には出血等の副作用を予知するため、血液凝固能検査等を十分に行う。	本剤は血小板凝集抑制作用を有するため、これら薬剤と併用すると出血を助長するおそれがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
薬物代謝酵素(CYP3A4)を阻害する薬剤 マクロライド系抗生物質(エリスロマイシン等)、HIVプロテアーゼ阻害剤(リトビル等)、アゾール系抗真菌剤(イトラコナゾール、ミコナゾール等)、シメチドン、ジフルアム等、グレープフルーツジュース	本剤の作用が増強するおそれがある。併用する場合は減量あるいは低用量から開始するなど注意すること。また、グレープフルーツジュースとの同時服用をしないように注意すること。	これらの薬剤あるいはグレープフルーツジュースの成分がCYP3A4を阻害することにより、本剤の血中濃度が上昇することがある。
薬物代謝酵素(CYP2C19)を阻害する薬剤 オメプラゾール等	本剤の作用が増強するおそれがある。併用する場合は減量あるいは低用量から開始するなど注意すること。	これらの薬剤がCYP2C19を阻害することにより、本剤の血中濃度が上昇することがある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用(頻度不明)

1) うっ血性心不全、心筋梗塞、狭心症、心室頻拍があらわれることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 出血

脳出血等の頭蓋内出血

脳出血等の頭蓋内出血(初期症状：頭痛、悪心・嘔吐、意識障害、片麻痺等)があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

肺出血、消化管出血、鼻出血、眼底出血等

肺出血、消化管出血、鼻出血、眼底出血等があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) 汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

4) 間質性肺炎 発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部 X 線異常、好酸球増多を伴う間質性肺炎があらわれることがある。このような場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

5) 肝機能障害、黄疸 AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、LDH 等の上昇や黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	光線過敏症、発疹、皮疹、蕁麻疹、痒感
循環器 ^{注2)}	心房細動、上室性頻拍、上室性期外収縮、心室性期外収縮等の不整脈、血圧低下、動悸、頻脈、ほてり、血圧上昇
精神神経系 ^{注2)}	振戦、頭痛・頭重感、めまい、不眠、眠気、しびれ感
消化器	腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢、胸やけ、腹部膨満感
血液	貧血、白血球減少、好酸球増多
出血傾向	皮下出血、血尿
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、LDH の上昇
腎臓	BUN、クレアチニン、尿酸値上昇
その他	発熱、発汗、浮腫、血糖上昇、胸痛、耳鳴、疼痛、怠感、脱力感、結膜炎、頻尿

注1)：このような場合には投与を中止すること。

注2)：このような場合には減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。[動物実験(ラット)で異常胎児の増加並びに出生児の低体重及び死亡児の増加が報告されている。]

(2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されている。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

8. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

9. その他の注意

- (1) イヌを用いた 13 週間経口投与毒性試験及び 52 週間経口投与毒性試験において、高用量で左心室心内膜の肥厚及び冠状動脈病変が認められ、無毒性量はそれぞれ 30mg/kg/day、12mg/kg/day であった。ラット及びサルでは心臓の変化は認められなかった。1 週間静脈内投与心臓毒性試験では、イヌに左心室心内膜、右心房心外膜及び冠状動脈の変化がみられ、サルでは軽度の左心室心内膜の出血性変化が認められた。他の PDE 阻害剤や血管拡張剤においても動物に心臓毒性が認められており、特にイヌは発現しやすい動物種であると報告されている。
- (2) 遺伝的に著しく高い血圧が持続し脳卒中が発症するとされている SHR-SP(脳卒中易発症高血圧自然発症ラット)において、シロスタゾール 0.3% 混餌投与群は対照群に比較して生存期間の短縮が認められた(平均寿命:シロスタゾール群 40.2 週、対照群 43.5 週)。
- (3) 他社が実施した脳梗塞再発抑制効果を検討する試験において、シロスタゾール群に糖尿病の発症例及び悪化例が多くみられた。
- (4) シロスタゾール 100mg と HMG-CoA 還元酵素阻害薬ロバスタチン(国内未承認)80mg を併用投与したところ、ロバスタチン単独投与に比べてロバスタチンの AUC が 64% 増加したとの海外報告がある。